

2019/5/24・午前0時解禁

映画「武蔵—むさし—」、上海国際映画祭・正式招待作品に決定 明日の公開に向けて未公開の殺陣シーンの画像も解禁

5月25日(土)全国公開の時代劇映画「武蔵—むさし—」。

(脚本・監督 三上康雄。出演 細田善彦、松平健、目黒祐樹、水野真紀、若林豪、中原丈雄、清水紘治、原田龍二、遠藤久美子、武智健二、半田健人、木之元亮)
その公開直前にうれしいニュースが届きました。

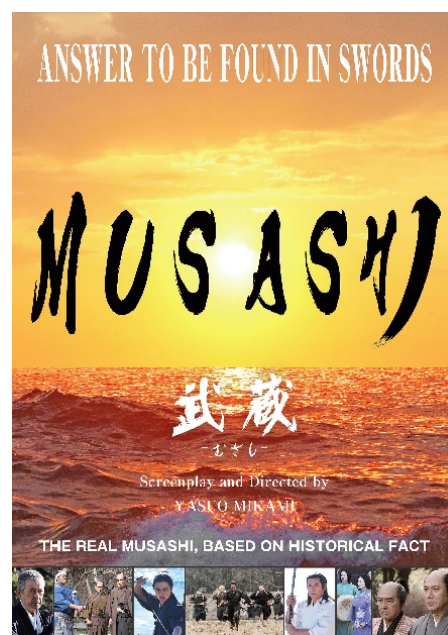
本日、5月24日の午前0時に上海国際映画祭・正式招待作品に決定しました。

上海国際映画祭は中国で唯一、国際映画製作者連盟公認の映画祭で1993年に第1回が開かれ、今年は第22回。6月15日から24日まで開催されます。

「武蔵—むさし—」の海外用タイトルは“MUSASHI”

日本版の広告のコピー“なぜ、戦う？”は

“ANSWER TO BE FOUND IN SWORDS”(答えは剣の中にある)という、海外向けコピーに変更し、ビジュアルも武蔵も小次郎も剣を構えるものに変更しています。すでに、海外からの問合せも多く、数カ国での公開が決まっています。



そして、未公開映像の迫力の殺陣シーンの画像4点も解禁します。

1.武蔵対吉岡一門の一乗寺下がり松の決闘で、武蔵が幼い吉岡の大將の亦七郎を人質にとる。



2.武蔵対小次郎の巖流島の決闘で、
にらみあう両者。



3.小次郎の燕返し。
右上から斜めに斬り、瞬時に手首を
返して左下から切り上げる。
「武蔵－むさし－」では、小次郎は武蔵
に勝つために、さらにもう一手を加えた燕
返しの新技をあみだす。
松平健さんしかできない大技。



4.そして、二刀流の武蔵。



武蔵役の細田善彦は一乗寺の決闘のシーンの撮影で傷だらけ、さらに3針を縫う
ケガを負う中で、20人以上との壮絶な殺陣を行いました。

佐々木小次郎役の松平健は完成披露試写会で「私は武蔵に斬られていません」
と発言。史実に基づく「武蔵－むさし－」での巖流島の決闘での勝者は誰なの
か？ 劇場でお確かめください。

配給：アークエンタテインメント株式会社（担当：木原） TEL. 03-3525-4455

海外配給：東映株式会社・国際営業部（担当：篠崎） TEL. 03-3535-7621

お問合せ：株式会社 三上康雄事務所（担当：鬼塚） TEL. 080-8306-0329 メール musashi@y-mikami.jp